

9 気管切開カニューレ固定のためのテープ使用による皮膚トラブル発生の要因

○根木 一樹 (赤穂市民病院)

I. はじめに

重度の呼吸機能障害患者も人工呼吸器使用により長期生存が可能となっている。しかし、挿管チューブや気管カニューレ固定のための長期テープ貼付に伴う皮膚損傷を発生することがある。そこで、皮膚損傷が最小限になる固定方法について、先行研究を基に検討した。

II. 研究方法

1. 研究デザイン：事例研究（A氏の事例の問題が解決できることを目的に文献検索し皮膚トラブルの発生する要因を探った）
2. 事例紹介

A氏、70歳代男性。A氏は、基底核等の変性疾患により自発呼吸が困難なため気管切開を行い人工呼吸器を装着している。A氏は拘縮した両上肢で気管カニューレを上へ上へと押し上げ、そのため気管切開部を広げてしまった。通常使用される気管カニューレでは気管切開部からカニューレが抜けるため、スパイラルチューブを活用し換気量を確保している。チューブの固定のためにヘルスケアテープを長期に貼付していたが、皮膚のトラブルが発生し頸部の数ヶ所が表皮剥離し、発赤部分は頸部周囲や前胸部にも広がった。テープを貼付する部位を挿管チューブの固定を行うたびに変更したが、それまでの固定位置と重なる部分もあり、発赤は軽減せず、表皮剥離が持続していた。

III. 結果

先行研究によると固定方法も重要であるが、テープの剥離方法も重要であることが分かった。積¹⁾と宗石ら²⁾は貼付時、目的・貼付時間・粘着力・透過性を吟味した医療用テープを推奨している。また、高齢者の皮膚に医療用粘着テープを使用し、剥離する際の皮膚に与える影響は、剥離力・90度以上の剥離角度・角質細胞剥離量が大きく関わるという。これらのことより、A氏は高齢でもあり皮膚の弾力性の低下、気管切開部からの分泌物やテープの粘着による刺激により、皮膚損傷要因が重なっていたこともあるが、テープ交換時にはスキンケアはもちろんのこと剥離角度や剥離力に注意をしなければならないということが示唆された。

IV. 結論

皮膚トラブルの主な原因が高齢による皮膚弾力性の低下、テープの粘着、テープ剥離時の方法にあることが分かった。皮膚損傷の治癒に向けたスキンケアは、①テープ剥離時に剥離角度を大きくする。②分泌物の除去はもちろんのことテープ交換時以外にも皮膚のスキンケアを行う。③剥離時に90度以上の角度をつける3点である。

1) 積美穂子: 医療用粘着テープ・ドレッシング材使用 になすうま 貼り方、はがし方、おすすめ、看護のワザ、照林社、p64-65 (2005)

2) 宗石さおり、明智美佐子、鎌倉直子他: フィルム材による皮膚から剥離し貼り方、はがし方、お悩みも原因が?、月刊ナーシング20 (8)、学研メディカル秀隣社、p46-47 (2000)